

会 議 録 (要旨)

会 議 の 名 称	令和5年度 第2回 小平市こだいら観光まちづくり振興プラン検討委員会
開 催 日 時	令和5年8月1日（火曜日） 午後3時00分から午後5時10分
開 催 場 所	福社会館3階 第2集会室
出 席 者	委員11名（うち公募委員5名）欠席3名 傍聴者なし
会 議 資 料	◆資料1 第1回小平市こだいら観光まちづくり振興プラン検討委員会 議事録 ◆資料2 小平市観光まちづくり振興プランの検証 ◆資料3 計画策定に向けた課題（案）について ＊ ◆参考資料① 現行計画の振り返り調書
説 明 事 項	1. 第1回小平市こだいら観光まちづくり振興プラン検討委員会要旨に ついて 2. 現行計画の評価結果について 3. 計画策定に向けた課題（案）について 4. 事務連絡

● 会議事項

1. 第1回小平市こだいら観光まちづくり振興プラン検討委員会要旨について	
発 言 者	会 議 内 容
【事務局】	◆資料説明：「第1回小平市こだいら観光まちづくり振興プラン検討委員会 議事録」【資料1】

2. 現行計画の評価結果について	
発 言 者	会 議 内 容
【事務局】	◆資料説明：「小平市観光まちづくり振興プランの検証」【資料2】
委員長	・評価シートのなかでは、給食や校外学習等の話が出たが、印象に残っているものはあるか。
委 員	・小学生の頃、地域学習でふれあい下水道館やグリーンロードを訪れた。
委 員	・小学生の頃、地域学習で農家の人に話を聞いた。
委員長	・それらの課外活動での経験は、今このように委員をやっていることと関係しているか。
委 員	・自分は、以前からまちが好きだが、他の人たちはどう感じているか、わからない。
委 員	・小学生の頃、さつまいもを農家で育てたことがあり、よく畑を見ているが、今は畑が駐車場に変わっており、減っているように感じる。
委員長	・地域学習が今でも心に残っていることがうかがえる。観光まちづくり連絡会の立ち上げが一番に出てくることもあり、その影響は大きいと思う。
委 員	・アクションプラン3における「観光データ」とは、どのようなものをさしているのか。また、「観光データ」はどのように活用されているのか。小平市のデジタルトランスフォーメーション推進担当部署と連携して、携帯電話の電波を通じた人流解析をして観光に活かしている話もある。
事務局	・小平に観光地はないものの、イベントが観光につながる。現在、保護者の会やPTAがイベントを開催する場合は教育委員会、商店街がイベントを開催する場合は産業振興課に連絡がいく、というように情報の一元化が図れずにいる。その情報を観光まちづくり協会でとりまとめ、イベントの情報源を一括化することが重要である。人流解析では、市においてDX化が遅れており、実際にデータを測る場合はシェアサイクル等外部的要因に頼らざるをえない。ただし、シェアサイクルは概ね通勤・通学での使用が占めており、観光にはほぼ使われていない。

2. 現行計画の評価結果について

発 言 者	会 議 内 容
事務局	それぞれのイベントを分析し、相互で盛り上げ、イベントの運営体制を確立させる必要がある。祭りも減少しており、盆踊りの開催場所は、以前は30 か所あったが、地域の高齢化が進んでいることもあり、現在は5 か所になった。イベントを維持するために開催情報の共有化が必要である。
委 員	・地産地消に関わる情報はどのくらいのスパンで更新されているのか。直売所を訪れてから品物がないという状態は避けたい。
事務局	・直売所の情報は年に1 回見直しをしている。ただし、更新はできていない。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・アクションプラン 27 に関連して、小学4 年生に向けた玉川上水の学習で、小平で平坦な土地に水を流していることを理解するため、約1 メートル・高低差が2 ミリ程度の筒に水を通す実験をした。高低差が2 ミリでは 水が流れない結果となり、当時の技術に対する称賛や高度な技術を知る機会になったとのこと。また、どのように計測したかなど多くの疑問を見つけ、その後の調べ学習にも発展し、おもしろいと感じた。このようなことが地域への誇りにつながり、長期的に観光の原動力 につながるため、このまま継続してほしい。 ・アクションプラン 29 では、さらにストーリー性をもったプログラムができれば、地元の小学校だけでなく、市外においても郊外学習の対象になると思う。市外からも課外授業として来てもらえるような、玉川上水を舞台とした、ストーリー性や理科的な実験を加えたおもしろいプログラムがあれば良いと思う。
委員長	・大人になってから、小平を学ぶ機会はあったか。
委 員	・大人になってから、小平を学ぶ機会はなかった。イベントに参加したことで、色々なものがあることに気付いた。イベントの開催は、開催地を増やしても良いと思う。現在は、中央公民館での開催が多いが、小学校等様々な場所で開催してほしい。
委員長	・例えば普段、どのようなイベントに参加しているのか。
委 員	・地元の祭りや盆踊り、灯りまつりが挙げられる。
委員長	・イベントそのものも減少しているが、担い手不足もある。
事務局	・昔は自治会がイベント開催の中心となっていたが、役員をやる人がいなくなってしまった。
委 員	・盆踊りの踊り手もいなくなっている。

2. 現行計画の評価結果について	
発 言 者	会 議 内 容
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回委員会でもイベントについて知っていただきたいと思います、イベントの予告をした。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 盆踊りをやっているが、自治会の会員も高齢化してきている。別の形でコラボレーションして新しい層と新しいイベントを運営していけないだろうか。 ・ アクションプラン 27、29に関連しているが、子どもが小学6年生のときに家庭科の授業で観光プランを作った。学校教育は、「教わる」状態から主体性のあるものになっていっている。実際は、観光プランを作るところまでで授業が終了したが、子どもは「作っただけで終わってしまう」と残念がっていた。今の子どもたちは、イベント運営もできる、もう一歩先までいけるように感じる。「学ぶ」に「実践する」を加えた学習教育を展開できないだろうか。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の事業のみならず、新たな内容も検討したい。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参考資料1の一番右の評価の欄には何か記載する予定があるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料作成時に作った枠であるが、記載予定はない。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現行計画の50のアクションプランはこれからの4年間も続けていきたい。継続等については、委員会内で意見を出し合ったほうが良いのではないかな。 ・ アクションプラン13では、サイト「フラッとNAVI～小平にこないか?～」のアクセス数が1万件と記載しているが、何年間で1万件なのか。また、この1万件という数値は多いのか少ないのか。個人的には、少ないように思える。アクションプラン14では、SNSのフォロワー数が記載されているが、InstagramとFacebookのフォロワー数は東京都の自治体としては多くない。両アクションプランは情報発信においてとても重要なため、事業を継続してほしい。 ・ アクションプラン44では、姉妹都市の産品の活用を検討するとあるが、どのようなものがあったのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 姉妹都市について、小平町の小学生が小平市を訪問しているところである。小平町の米から日本酒を作ったり、大豆から豆腐を作ったりして学校にも納品している。小平町はメロンが特産品であるが、高齢化でメロンの生産量が激減し、作れなくなっている。 ・ 委員の意見のとおり、SNSのフォロワー数は少ない。 ・ 観光まちづくりのためにアクションプランは基本的に全て継続することを考えている。 ・ サイトアクセス数について、皆さんが知る急激な伸びではないが、観光まちづくり協会のHPは、映像・動画に力を入れてアクセスが増えている。

2. 現行計画の評価結果について

発 言 者	会 議 内 容
事務局	・アクションプラン内の「農地の保全」は、この計画においては、テーマが大きすぎる。しかし、学童農園での体験を若い世代が覚えていたこと、昔、我々の世代は梨狩りやぶどう狩りに行ったこと、「行く」だけでなく、「行って育てる」に時代が変化していることも踏まえて、学童農園の活動を継続していきたい。
委員長	・アクションプラン 50 の継続等については、次回以降の委員会で詳細を詰めていく。
委 員	・令和 2 年から令和 3 年にかけて、Twitter のフォロワー数が増加しているが、何を行ったのか。
委 員	・「コダイラモリモリキャンペーン」や「小平まるまる巡り旅」の一環として、Twitter のフォロー＆リツイートの施策を実施した。Instagram では、今後もフォトコンテストの開催を予定している。きっかけを作るとフォロワー数が増える。ただし、他にも業務があるため、HP だけを管理することは業務としてはできない。
委員長	・情報がないと発信できない。
委 員	・SNS は見たことがなかった。
委 員	・SNS とポータルサイトがあることをこの場で初めて知った。
委員長	・「フラッと NAVI～小平にこないか？～」は、良いフレーズだと思う。
委 員	・アクションプラン 11 は、今年も開催している。昨年の参加者数は、1500 人を超える実績があった。「駅からハイキング」を企画しているのは、東京都では新小平駅だけである。ブルーベリーの販売者に協賛してもらっているため、ブルーベリーを売り込みたいが、この暑さでは、集客が難しい。開催時期の検討を行うとともに、アイデアがほしい。
委 員	・イベントの開催時期については、決定が難しい。「駅からハイキング」には固定客がついており、武蔵野線とのアクセスも良好である。このようなタイアップがあるのは良いことであると感じる。あとは暑さの問題である。
委 員	・ミストが出る機器やベンチを設置する、クーリングシェルターを導入している。チラシを置くこともできて、宣伝になる。休憩地として、このような場所は今後増えてくると思う。
委 員	・先日、大学生に小平市のまち歩きをしてもらったが、グリーンロードは暑

2. 現行計画の評価結果について	
発 言 者	会 議 内 容
委 員 委員長	さをしのぐことができ、良いと感じた。 ・玉川上水に行くと、気温が3度くらいちがう気がする。

3. 計画策定に向けた課題（案）について	
発 言 者	会 議 内 容
【事務局】	◆資料説明：「計画策定に向けた課題（案）について」【資料3】
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・「住んでよし編」の冒頭で地域資源の活用に関して説明されていたが、ミッションには地域資源の要素が見えてこない。 ・「住んでよし編」では、SUUMO と ARUHI のデータを参考としている箇所があるが、両者の調査対象者は主にマンションを買い手人達を対象としているため、客観性に欠ける。 ・「マーケティングを活用した『都会から一番近いプチ田舎』戦略の策定～小平グリーンロード『癒しと体験の旅推進プロジェクト』事業報告書の精査内容で足りているのではないかと。本委員会の位置付けが不明瞭である。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・事業報告書には、こだいら観光まちづくり協会が実施していく内容が記載されている。本委員会は、市が観光だけでなく、観光まちづくりを行うための計画を策定するものである。市として観光まちづくりの明確な方向性を出していく。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・小平の強み・弱み・好きなところを挙げながら、今後話を発展させていきたい。住民快適性に関連して、小平の誇れるところについて話を聞きたい。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・「住んでよし編」で挙げられていた、子育て環境、緑、安全のバランスが良いと思う。実際に体験してもらいたい。食に関しては、直売所で購入することができ、Instagram に写真を載せると「その食材はどこで手に入れたの」と聞かれることもあり、求められている情報と伺える。活力あるまちという点では、地域の方がイベントを作ることが得意であると感じるので、活かせると良い。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・食は大切である。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・ブルーベリーや「ART CAMP VILLAGE in KODAIRA」等、適度な自然がある点が良い。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・市外の人間から見ても、土地が平坦という特徴がある。稲城市と比較すると、市の人口や面積等、規模が似ている。またどちらも緑が豊かである。ただし、緑の種類 が異なっており、稲城は里山で、小平の緑は都心の人が多摩エリアに期待する山や川ではないので少し弱い。しかし、平らな土地なので移動しやすいし、「多摩なのに山が無い」というのは面白いギャップにもなる。平らなところをアピールするのが良いのではないかと。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・「住んでよし編」の5ページに挙げられた、利便性、教育環境、安全性にゆとりを加えたものが小平の優れている要素だと感じる。新宿からのアクセス性が良く、教育環境も整っており、夜も住宅街が明るく、安全性があ

3. 計画策定に向けた課題（案）について

発 言 者	会 議 内 容
委 員	る。一方で、資産性や魅力あるまちの要素が少ないと思われるので、これからアイデアが出せれば良いと思う。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・小平は緑が多く、玉川上水の橋が最も魅力的であると感じる。都会の川はきれいと思えないが、小平の川は美しいと思える。自分が訪れたいと感じている場所の魅力を発信していきたい。丸ポスト等も歴史があり魅力的だと思う。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に強いことから、小平に住むことを決めた。先日的大雨で、水没状態になっている町もあり、鈴木用水も池のようになっていたが、その程度で済んだ。災害への強さをアピールしていくべきである。 ・小平の静かなところが気に入っているため、観光で渋谷のスクランブル交差点のようにガチャガチャしてしまうなら、観光に来てくれる層を選びたい。若い人を呼び込みたいのであれば、大学生をメインにしたイベントが良いのではないかな。 ・小川駅のように、駅に物産展のブースを作るのはどうか。ハード面や農家の発信が少ないので情報の整備が必要であると感じる一方で、販売の告知をしても近所だけで売り切れてしまうこともあり、情報発信の範囲を分けたほうが良い場合もあるように思える。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・誇れるという点では、災害リスクが少なく、ハザードマップの赤色が少ないので、災害に強いという点が挙げられる。しかし、一番は緑が多いことであると思う。国や都の土地が今大学や企業になっているという経緯があるが、所々には緑が残っており、維持されている。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料3で挙げられた方向性（案）にアクションプラン50を当てはめてもらいたい。既存事業と新規事業を仕分けした上で、ブラッシュアップを行いたい。小平市は、アクセス性が良く、歩きやすいと思う。事業所も多く、季節感のある魅力的なまちであると感じる。 ・JAの野菜は人気がある。駅での販売を高頻度でやってほしいが、人手がないため毎回はできないと聞いている。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・人件費の問題があり、駅での野菜販売は、高頻度ではできていない。季節に寄っては、週に1回実施している。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・外に向けて野菜販売の活動を広げることができれば良いと思う。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・他所に住んでいるが、小平に住むとしたら、安全性が決め手になると思う。災害に強く、畑が多い、井戸もあるので水の確保も可能である。完熟したフルーツも手に入れることができる。農業、安全性、災害に強い点を絡めていくとより魅力的になる。

3. 計画策定に向けた課題（案）について	
発 言 者	会 議 内 容
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・小平は、最初に玉川上水や小川村等ができ、歴史的なまちであった。その後、学園都市として発展した。とくに玉川上水は歴史性が感じられる。その面影を守り、保全しながら魅力を伝えたい。 ・8月5日には、市報に「小平景観ベスト 10」の選出に関する記事が掲載される。江戸時代から残っている景観を選出候補としてピックアップした。市民を巻き込みながら、景観の魅力を伝えたい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・「小平景観ベスト 10」は新たな取組だと思う。 ・各委員の話から見えた強み・弱みからアクションプラン 50 の継続や新しい取組を今後検討していくため、第3回検討委員会に向けた滑り出しができたように思う。

4. 事務連絡	
発 言 者	会 議 内 容
【事務局】	<ul style="list-style-type: none"> ・次回委員会は、9月27日（水）午前10時より市役所5階504会議室にて行う。

議事録署

印

印